

シルヴァリオサーガRPG 邪竜滅殺√

太陽の笑顔護り隊隊長

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「シルヴァリオサーガRPG」という架空のゲームの実況動画風の作品です。

走るのは本気おじさんことファヴニル・ダインスレイフをぶち殺す邪竜滅殺✓です。

邪竜のその背に魔剣を突き立て、”竜殺運命”ニールンゲンの歌を紡げ

之は、唯一人の為の英雄譚サーガ

偉大なる先駆者様方に敬意を込めてこの作品を捧げる——

目次

邪竜をぶち殺す事に人生を捧げるキヤラ	
メイク	1
竜殺しの目覚め	9
それは運命の分岐点	24

邪竜をぶち殺す事に人生を捧げるキャラメイク

みなさんどうもこんにちはこんばんは。

? 今回は何をどうしたらこんなクオリティにまで仕上げる事が出来たのか誰にも理解出来ないゲーム 『シルヴァリオサールPG』の実況プレイをしていきます。

? 実況はこの私、ゆっくりアオイが務めさせていただきます。ボイロの方ではないです、馬鹿共のせいで今現在も絶賛株価上昇中のアマツの方のアオイです。

? それではOPが流れている間、まずこのゲームについて説明します。

? 本作はlight発売のADVゲーム 『シルヴァリオ ヴェンデッタ』 『トリニティ』 『ラグナロク』の三作を原作としたRPGになっています。

? 原作キャラを操作してそのキャラの視点でシナリオを追体験することも、オリジナルキャラクターを投入することで新たな結末を目指すことも出来るまさに歓喜極まって号泣するレベルの素晴らしいゲームです。

? 特にオリジナル主人公を用いた自由度の高さに定評があり、総統閣下と親友になる事も、ヴァルゼライド閣下の聖戦に向けての協力をする事も、はたまた聖戦に介入してクリストファー閣下を助太刀する事までも………申し訳ありません、若干私欲が出てし

まいりました。

? まあそういう感じで我らがクリストファー・ヴァルゼライド総統閣下とその他諸々のファンにとって思わず帝国軍に入隊したくなるような内容です、いえゲーム内で入隊出来ますが。

? しかし今回は帝国軍に入隊はしません。

? 今回やるルートは総統閣下に感銘を受けたくせにそれを歪曲して捉え帝国に仇なす憎き厨二病拗らせ腐れ畜生ことファヴニル・ダインスレイフをぶち殺す邪竜滅殺[√]です。

? ただファヴニル・ダインスレイフを殺すのではなく、グランド[√]における人造機竜と化したダインスレイフを単独で撃破するルートです。

? トリニティのエネミーの中で覚醒ヘリオス、アメノクラトに次いで三番目に厄介な奴ですが、この際奴に対しての(一方的な)恨みつらみを叩きつけてやります。

? OPが終わったようなのでキャラメイクに取り掛かりましょう。最初に原作キャラを使うかオリジナルキャラを作成するか訊かれますので迷わず後者を選択。前者はあくまで追体験なので原作準拠のシナリオしか見ることが出来ません。

? 外見と性別、名前、個性、年代、七つの基礎ステータスの傾向、^{アステリズム}星辰光までを選択して決定していきます。

? 髪は赤、瞳は緑、それ以外の外見はランダム、性別は男を選び、出生年代は新西暦1003年に設定します。

名前は邪竜を討伐する為とその他の理由の為に「グラム・ザイフリート」と入力します。

? グラムはジークフリートと同一視されるシグルズの持つ魔剣、ザイフリートはジークフリートの別称ですね。

? さて、邪竜滅殺√に入る必須条件は「ファヴニル・ダインスレイフに親族や友人、恋人を殺害されていること」

? この条件からわかるように邪竜滅殺√はファヴニル・ダインスレイフに復讐を遂げるルートです。これを満たしていないと邪竜滅殺√に入ることは出来ません、復讐でもなきやわざわざあんな危険人物殺りに行きません。

? ただこの条件を満たせるかは基本的にランダムです。新西暦1016年以降に帝国軍所属で東部戦線での戦闘中、もしくは帝国で交易の仕事に着いたり商国で帝国と交易しているとランダムに襲撃してきます。

? 帝国軍所属ならなんとか戦闘して離脱することも出来ませんが、商人の場合傭兵を雇っていないと死にます。

なんなら傭兵雇ってても死にます、商人プレイをする人はなるべく強い傭兵を雇いま

しよう。

?このイベントが起こって、親しい人が殺害され、尚且つ自分は生き残らなければいけない。

?詰まるところ普通にやったらこのルートに入れるかそのものがランダムです。

?しかし、一つだけ確定でルートに入る方法があります。

?それが今キャラメイクで指定した赤髪と緑目、どう考えても偽名な名前ですね。

?外見をダインスレイフと同じ赤髪と緑目を選択すると高確率で血縁になります。それに加え名前を神話などになぞらえた名前にすると血縁関係が確定します。この場合限り、キャラメイクで決めた名前は本名ではなく、ダインスレイフと同じく偽名になります。

?そしてこの名前にジークフリートに関する言葉を入れることで邪竜滅殺✓に入ることが出来ます。それ以外はダインスレイフと共にニルヴァーナに入るところから始まります。

?このゲームにおけるダインスレイフの出生年代が新西暦998年なので五つ離れた弟ということになりますね。

?そして邪竜滅殺✓に入ったことで個性【邪竜を討つ者】を獲得します。これは後で決定する星辰光のステータスの覚醒率を一段階上昇させます。これだけだとただのゴミ

個性ですが、ルート専用個性は基本的にそのルートに活かせる能力が更に追加されません。

?この個性はファヴニル・ダインスレイフとの戦闘時ステータスにバフが掛かり、覚醒率に依じての回数復活とステータスバフ、いわゆるまだだっ!をする事が出来るようになります。復活は本来まだだっ!【光の信奉者】系統のスキルを獲得していないと発動出来ませんが、この個性は限定条件下で例外的に復活出来ます。まあ正直これが無いとあの自称邪竜の勘違い十四歳児を単独撃破なんて無理なので妥当です。ホライゾン外交官が界奏に覚醒しても、このルートの仕様上その恩恵を預かる事が出来ません。いや確かにマルスの星だけで完封出来るので当然といえば当然なんです。

?なのでこのルートの最終決戦は理不尽に盛ったバフとプレイヤースキルで此方以上に理不尽な光の方向性を勘違いした馬鹿をどうにか地獄の底に叩き落としてやることになります。

?それでは次に基礎ステータスの成長傾向を選択します。【攻撃力】【防御力】【敏捷性】【技量】【精神力】【知力】【幸運】の七つをどうするか選びますが、ここは攻撃力と精神力を半々というところですね。攻撃力はその名の通り、精神力は復活の際のバフの値を上昇させます。

?最後にシルヴァリオシリーズの華である星辰光の決定です。質問に答えていくこと

で百以上ある星辰光の中から一つ決定されます。それぞれの能力は固定ですが、ステータスはその時その時でバラバラです、祈りましょう。

？キャラメイク段階でルートが確定すると質問の前に専用星辰光を選択するかを聞かれるのですが、これは飛ばします。有志によると確定で選ぶのと質問で決定するのでは質問の方がランダムステータスが高い傾向にあるらしいので、wikiで質問の分岐を見ながらやつていきましよう。……はい、終わりましたね。

？アマツではないので高いステータスになるかどうかは少々心配ですが、見ていきましよう。

闇を絶標準て、邪竜斬り裂標準く聖なる魔剣

AVERAGE

DRIVE

STATUS

集束性

拡散性

操縦性

C

AA

AA

C

A

付属性
維持性
干渉性
成長性
覚醒率

A A A
B D C A

? 勝ちました (勝利宣言)

? 高出力に高水準な集束性、操縦性、付属性に平均的なステータス。星辰奏者^{エスベラント}としては化け物ですね、帝国に欲しいぐらいです。

? 能力は光の発生と操作です。出力や集束性が低いとピカピカするしかありませんが、今回はどちらも高いので閣下の如くビームを撃てます。まあ閣下と違い出力が低かったり放射光じやないので閣下のそれより弱いですが、当然ですね。

? しかし操縦性が高いので曲げ撃ちしたり、ビームではなく光弾を撃つたり、バリアを張れるので万能性においてはピカイチです。特にバリアを張れるのは大きいですね。光の熱で触れた物を焼き尽くす事が出来るのでランダムに飛んで来る邪竜の牙という名の地面や壁を無効化できます。

? 原作に無いステータスとして成長性と覚醒率があります。成長性は高ければ基礎ステータスが成長しやすくなります。覚醒率は前述の通り覚醒の為のステータスですね。無論閣下はどちらもEXです、流石はヴァルゼライド閣下………!

? 成長性はBとちよつと優秀、覚醒率は個性込みでAAAとEX一步手前ですね、なんだかんだアレの弟ということでしょうか。AAAだとアレ相手には三回の覚醒が可能です、だいぶ楽になりました。

ね………
これだけやっても勝てるかわかんないあたりあの本キチ中年と烈奏が恐ろしいです

? ちなみに星辰光の名前はこのルート専用の物で、普通は別の名前になります。

? どうやって邪竜を殺すというやる気が伝わってきますね。

? この後は少々長めのロードとスキップ不可の大まかな世界観説明が入ります。

? 出身地や年代によってそれぞれ説明が違いますが、今回はダインスレイフの弟なので商国スタートです。なので十氏族の説明が入りますね。

? ——というところで今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

竜殺しの目覚め

? またお会いしましたね、ゆっくりアオイです。

? 前はキャラメイクの後、世界観説明が終わったところでしたね。早速続きと参ります。

? 通常プレイではここからプレイヤーキャラを操作可能になるのですが、邪竜滅殺√の場合プロローグイベントが挟まれます。スキップ不可ですが別にこれはRTAではないのでゆったりしていきましょう。

——新西暦1017年

? イベントが始まりました。二頭の馬に引かれ馬車が荒野を走っています。まあ、護衛のような人間が周りにいるからかそこまで速くはないですが。ゲームの始まり方としてはテンプレートですね。

? 馬車の中に視点が移りました。中に三人、揺られながら楽しく談笑していますね。そして赤髪緑目の見覚えのあるのが一人、前回キャラメイクした後のグラム・ザイフリー

トことジョウ・ブレイオーネです。

?そして彼と談笑している二人、彼らがダインスレイフとザイフリートの両親です。ア
ンタルヤの商人ですが、別に十氏族でも無ければ商会に所属している訳でもない小さな
商人です。ただ会話の内容から最近では帝国との商売が上手くいつている様ですね、あつ
…(察し)

?ちなみにこのルートで殺る予定のダインスレイフは現時点で行方不明です。どうや
ら数年前に家を出ていったとのこと。まあ本当にすぐ出てきますが。

?さて、雰囲気的にはこのまま何時も通りの日常が過ぎていったで終わりそうですがそ
うは問屋が卸しません。とは言っても場所は見渡す限り広い荒野、周囲には雇った傭
兵、そして襲つても大した利益の無い木っ端商人と正直何かが起こるわけないんです
が………。

?居ますよね一人、帝国を目の敵にして破壊工作やらかしまくる馬鹿が。

?という訳で爆音と共に画面が炎に包まれてから真っ暗になりました。やりやがった
なああの邪竜、容赦なく両親と弟を爆破したよあの頭本気が。

?目を覚ませば周りは馬車の残骸と炎と死体の地獄絵図です。このゲーム一応R—1
8なんですけどそれが働いてるのはこういうグロ描写です。

?腕吹っ飛んだり下半身無くて内蔵飛び出したり首だけだったり結構エグいで

す。奇跡的に主人公は全身火傷と打撲で済んでるのでマシです。

? というかここら一体がなんか低いですね、どれだけ火薬使ったんですかあの馬鹿竜は。木っ端商人に対してこの仕打ちは本気でやったとかもはやそういうレベルじゃないですよこれ。というかこれで主人公がこの程度で済んでるのは本当に奇跡ですね……神に愛されでもしているんでしょうか。

? そんなこんなで周りを見渡すと遂に主人公が両親の死体を発見してしまいます。酷い有様ですね、口に出すのものはばかられます。

? どうしてこうなったんでしょうか。

「警戒が足らなかつた、という他ないな」

? ?とうとう現れましたダインスレイフ。流星に笑みを浮かべては 아닙니다ね。真面目な雰囲気を出しているあたり、一応人の情らしきものはあるんでしょうか。まああつても目的の為なら躊躇いなく踏み潰していくのが彼らな訳ですが。

「例え護衛を雇おうとこういう風に爆弾を仕掛けられちゃ何の意味もない。毎回同じルートを通るのも見通しが甘い、予測が容易だ」

? 何無茶なことを言っているんでしょうか。まずこんな荒野のど真ん中に爆弾が仕掛けられてるとか予想も出来ません。同じルートに関しては分からなくもないですが、ホライゾンくらいの商人はともかくブレイオーネ程度の商人がこんな大掛かりな罠を仕

掛けられるとか普通有り得ません。

「しかしまさか生き残りがいて、それがよりもよつてお前だったとはな。こいつは幸運だったのか、それとも不幸だったのか。お前はと思う、弟よ」

「ガイ、兄さん……?」

「違うな、その名は捨てた。いや、ガイ・ブレイオーネという男はもう死んだ。俺の名は、ファヴニル・ダインスレイフだ」

「ここでファヴニル・ダインスレイフが主人公の兄だということが判明しました。プレイヤーからしてみれば周知の事実かもしれませんが。」

「?とここでガイ・ブレイオーネがダインスレイフのこのゲームにおける設定上の本名な訳ですが。ガイはともかくブレイオーネってなんですか、何を考えてスタッフはこんな名字にしてしまったんでしょうか。」

「兄さんが、やったのか」

「そうだ。俺がやった、俺が殺した。俺の、そしてお前の両親をな」

「……どうして?」

「二つは依頼だ。最近台頭し始めているブレイオーネを潰せっていうな。もう一つは、過去の俺のケリをつける為だ。俺の中のガイ・ブレイオーネを完全に殺す為に、かつての肉親を殺す。そうする事で俺は真にファヴニル・ダインスレイフに成れる」

？は？何を言っているか意味がわからないですね。閣下のような大義の為の犠牲なら良いとしてそんな身勝手な理由で殺されかける人間の身にもなれ。現に両親と馬車の御者と護衛は全員爆死、生き残った主人公は五体満足とはいえ全身ポロポロ、ふざけているのか。

？コイツといいハーヴェスといい本当に光の亡者はロクな奴がいませんね。オーバードライブを見習いなさい、彼とその部隊は帝国の為に文字通り粉骨砕身して働いていますよ。

？主人公の様子ですが、キレています。そりやあもう烈火の如くブチギレています。いきなり馬車が爆発して両親が死んだら兄が現れて俺がやったと言ってその理由が理解不能、誰でもキレます当然です。……………これ俺がやった以下の下りがなければブランシエ技師が大虐殺の時に遭った状況とそっくりですね。

「さてどうするか、ブレイオーネを潰せという依頼内容的にはお前も殺さなきゃならぬ訳だが……………」

？と、ダインスレイフが思考をしているところに主人公が殴り掛かりました。しかしポロポロの体では大した速度も威力もなくあっさり受け止められてしまいます。うわ笑いましたよコイツ、気持ち悪いですね。

「そう、その目だ。ポロポロの身体でありながらもお前の目は今にも俺を殺してやると

怒りと憎しみに満ち溢れている。本気で怒っているな、本気で憎んでいるな。アイツと同じような目をした奴をこんなところで殺すには惜しい」

？　そう言っただインスレイフが主人公を振り払いました。とどのつまりあの時見た閣下の目にそっくりだから殺さないと言っただころでしょうか。少年漫画とかでよくやる展開で最近はいやなんで主人公だけ殺さないねんとかツッコまれるヤツですが、コイツがやつても何の違和感もないですね。

「依頼主もお前だけ残っても問題は無いと判断するだろう、少なくともこれでブレイオーネが商売敵になることは無いんだからな」

「何のつもりだ貴様……！」

「気が変わったのさ」

？　そう言っただインスレイフは笑みを浮かべながら背を向けて去っていきます。主人公は追おうとしますが限界なのか転んでしまいます。全身火傷と打撲ですからね、感覚が麻痺しているかもしれないがだいぶ重症ですからね。

「…ファヴニル・ダインスレイフツ！　俺は貴様を決して許しはしない！」

？　しかしこれでは終わりません。腕も脚も動きませんが口はまだ動きます。

？　両親をよくも殺してくれたな！　しかも俺とお前の親だぞ、ぜってえ許さねえ！　どれだけの時間が掛かっても、具体的には18年後にお前を殺す！　何処までも追いかけて必ず

殺す！何が邪竜だじゃあ俺はお前を殺すジークフリートになってやらあ！

「……クツ、クククク…ハアーツハツハツハアツ!!言うじゃねえか弟よオ！俺を殺すとよく言った！いいぜ、やってみろよ。本気で俺を殺しに来い！だが俺の英雄ジークフリートには先約がいる、そこは譲れねえな」

？はーお前の事情とか知らないんですけど？というか勝手に閣下を貴様だけの英雄にするとか不敬にも程がありますよ？

「ジヨウ・ブレイオーネは今死んだ…覚えておけ！俺はグラム・ザイフリート！貴様という邪竜を殺す竜殺しの英雄にして魔剣だ！……ッ！」

？あ、遂に倒れました。そしてダインスレイフは聞くに耐えない笑い声を上げながらその場を立ち去りました。????

これでプロローグイベントは終了です。

【グラム・ザイフリートはスキル「復讐者」を獲得しました！】

？そしてスキル「復讐者」を手に入れました。このスキルは精神力のステータスにボーナスが付き、復讐対象と戦闘する時に全ステータスにバフが掛かります。他のキャラクタードとレイン・ペルセフォネやラグナ・ニーズホッグが所持していますね。

？——というところで今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。次回からはようやく主人公もといグラム・ザイフリートを操作します。

？ニルヴァーナが潰された後、俺はまず傭兵になる事にした。奴の目をこっちに向かせるにはアドラーに対して無視出来ないレベルの不利益を被せればいい。最初は微々たる物でも、積み重ねればそれは巨大になっていく。旧暦のことわざで、塵も積もれば山となるというやつだ。その為に金を稼ぐのと名を轟かせるのを兼ねるなら傭兵が一番都合が良かった。

？それから今までの怠惰が嘘のように本気で努力した。非合法な手段で金をかき集め、身体を鍛え、知識を深めた。寝る間を惜しみ、毎日毎日出来る事なら全て本気でやった。

？そして一年が経ち、俺はようやく傭兵としての活動を始めようとしていた。まずは名を上げる事が重要だからと帝国関係の暗殺や襲撃なんかの裏の依頼の中からデカい商会……十氏族からなんかの依頼は無いかと探していた。正直無名の俺じゃ門前払いが良いとこだらうが、何でもやってみなきゃ結果はわからねえ。俺はあの時それを知った見たんだからな。だが依頼を漁っていると見覚えのある名前を見つけた。

「ブレイオーネ」……俺の生まれた家の名前だ。

？怠惰だった頃の俺は商人の勉強を真面目にしようと思わず、ある日家を出ていった。既に過ぎ去ったはずの過去の事を思い出した時、俺は自覚した。俺にはまだかつての自分

がしがみついている。過去との決別が着いているならこんな些細な事を思い出さない。ならば俺の中にはまだ怠惰であった頃の自分が、あの時死んだはずのガイ・ブレイオーネが残っているのだ。

？終わらせたはずの事が終わっていない。ならば、ケリをつけなければいけない。真に魔劍邪竜と成る為に、かつての自分を殺す為に、かつての家族を俺が殺そう。そうして依頼を受けた、ブレイオーネが勢いづく前に潰せという依頼を。

？まず必要なのは情報だ。帝国に行く日を突き止めて、気づかれないよう何度も尾行した。少なくとも一定数の傭兵を護衛として雇っている事から、襲撃による殺害は困難だと判断した。しかし毎回同じルートを通っている、罫を仕掛けるのが最適だ。

？ならば爆弾で吹き飛ばしてしまおう、一年の間に爆薬の知識は頭の中に入っている。地雷では駄目だ、確実に踏まれるとは限らない以上確実に広範囲を爆破しなければならぬ。材料を大量に集め爆弾を作り、何日も掛けて馬車の通るルートに半径20メートルくらいに渡って埋めた。

？後はどう爆発させるかだ。今現在スイッチを入れて遠くの物を爆破させる技術は存在しない。ならどうするか。馬車を通るタイミングで爆発するよう調整すればいい。どうやればこのタイミングで爆発するのか、それを調べる為何度も実験を繰り返した。？そしてとうとう実行の日がやってきた。埋めた爆弾が30分後に爆発するよう調整

し、遠くの崖の上で待機する。そして丁度30分後、馬車が予定の位置の近くまで来た。
「…ピツタリだな」

？自分でも珍しく、今日は表情が固かった。あの日から心の底からよく笑う様になったが、流石に今はそういう気分にはなれないらしい。

「俺を生んで、育ててくれた事は感謝するぜ。そしてすまなかつたな弟よ、お前に兄らしい事は一度もしてやれなかつた」

？ガイ・ブレイオーネとしての最後の言葉を呟く。瞬間、埋めた爆弾が爆発する。少し遅れて聞こえてきた爆音と爆発の後を見て、もはや生存者はいないだろう。

「…さて、一応確認はしておくか」

？生存者がいる確率はほぼ0だ。だがもしかしたら、奇跡的に生きているヤツがいるかもしれない。そう思い爆心地へと足を進めた。

？いた。一人、見覚えのあるヤツが。

？全身ボロボロで身体は火傷だらけ。だが生きている、あの爆発の中で、唯一人だけ。俺と同じ赤い髪と緑の瞳。ジョウ・ブレイオーネ、かつての弟がその場に立ち尽くしていた。視線の先には数年ぶりに見た両親。爆発でバラバラになった姿だったが。

「どうして……こうなつたんだ……？」

「警戒が足らなかつた、という他ないな」

? 呟きに答えると、ジョウは驚いた顔でこちらに振り向いた。

「例え護衛を雇おうとこういう風に爆弾を仕掛けられちゃ何の意味もない。毎回同じルートを通るのも見通しが甘い、予測が容易だ」

? そうだ、実際情報集めに關しては拍子抜けだった。十回以上はやるだろうと踏んではいたが、四回ほどの尾行で同じルートしか通らない事を確信したからかそれほど時間は掛からなかった。護衛を雇い襲撃に備えていたのはいいが、罠が仕掛けられる事を予想出来なかったのだろうか?

「しかしまさか生き残りがいて、それがよりにもよってお前だったとはな。こいつは幸運だったのか、それとも不幸だったのか。お前はと思う、弟よ」

「ガイ、兄さん……?」

「違うな、その名は捨てた。いや、ガイ・ブレイオーネという男はもう死んだ。俺の名は、ファヴニル・ダインスレイブだ」

? 数年ぶりの再開を果たした弟にそう告げる。

「兄さんが、やったのか」

「そうだ。俺がやった、俺が殺した。俺の、そしてお前の両親をな」

「……どうして?」

「一つは依頼だ。最近台頭し始めているブレイオーネを潰せっていうな。もう一つは、

過去の俺のケリをつける為だ。俺の中のガイ・ブレイオーネを完全に殺す為に、かつての家族を殺す。そうする事で俺は真にファヴニル・ダインスレイフに成れる」

？今の俺にガイ・ブレイオーネは残っていない。ここにいるのはファヴニル・ダインスレイフ、英雄に討たれた邪竜にして英雄を滅ぼす魔剣。弟は生きているが、俺の中でのケリはついたらしい。

「さてどうするか、ブレイオーネを潰せという依頼内容的にはお前も殺さなきゃならぬ訳だが……」

？そいつはどうも乗り気にはならない。それは――

「――ッ！」

？拳を受け止める。ボロボロの身体から放たれたそれは弱々しい物だったが、注目すべきはそこじゃない。こちらを睨む眼光――ああ、やはりそっくりだ。

「そう、その目だ。ボロボロの身体でありながらもお前の目は今にも俺を殺してやると怒りと憎しみに満ち溢れている。本気で怒っているな、本気で憎んでいるな。アイツと同じような目をした奴をこんなところで殺すには惜しい」

？全く同じ訳ではない。アイツの眼は怒りで炎の様に燃え盛っていたが、コイツは眼は暗い憎悪と憤怒が混沌としている。

「依頼主もお前だけ残っても問題はないと判断するだろう、少なくともこれでブレイ

オーネが商売敵になることは無いんだからな」

「何のつもりだ貴様……！」

「気が変わったのさ」

？手を振り払いその場を立ち去ろうとする。余計な事は言わない、コイツはいずれ再び俺の前に現れるだろうから。

「…ファヴニル・ダインスレイフツ！俺は貴様を決して許しはしない！」

？初めて他人から呼ばれたその名に思わず振り向く。ジヨウはポロポロの体で立ち上がりながら、その眼で俺を睨みつけていた。

「己を生み育てた人を、俺と貴様の両親を殺した！犯してはならない禁忌の所業だ！貴様をそれをやった！」

？その眼はつい先程見た時と同じく憎悪と憤怒に塗れていた。だがその瞳の奥に無かった物を見つけた。

？光だ。暗い闇い混沌に射す真っ直ぐな輝き。その光が俺を貫かれた様にその場に留めていた。

「俺は許さない、貴様の存在を！だから殺す！どれだけの時間が掛かろうと貴様を地の果てまで追いかけてその息の根を止めてやる！貴様が邪竜と言うのなら、俺は邪竜を討つ竜殺しに、ジークフリートになってやる！」

?——その一言が、俺の心に火を灯した。

「……クツ、クククク…ハアーツハツハツハツハアツ!!」

?コイツは今なんて言ったんだ?ジークフリートになるだど?それはそれは……………

「言うじやねえか弟よオ!俺を殺すとよく言った!いいぜ、やってみるよ。本気で俺を殺しに来い!だが俺の英雄ジークフリートには先約がある、そこは譲れねえな」

?そうだ、俺の英雄はアイツだけだ。クリストファー・ヴァルゼライド、怠惰だった俺を殺しの目を覚まし光と本気の素晴らしさを教えた男。

「貴様の事情等知ったことか!これは復讐、俺の極めて個人的な理由に過ぎない。身内の暴走は身内がケリをつけるという俺のエゴだ。そこに貴様の意思が介在することは無い。もう一度言おう、貴様の竜殺しには俺がなる」

?ああそうだ、お前が何を考えようとそれを俺が咎める事は出来ない。

「なら勝負だ!俺の本気が勝つかお前の本気が勝つか!俺がお前を殺すかお前が俺を殺すか!人生最初で最大の兄弟喧嘩と洒落こもうじやねえか!」

?もはや立つのも限界なのかふらつきながらもジョウは俺を指差し、俺と自身への宣誓を言い放つ。

「ジョウ・ブレイオーネは今死んだ……覚えておけ!俺はグラム・ザイフリート!貴様と
いう邪竜を殺す竜殺しの英雄にして魔剣だ!……ッ!」

？その言葉を最後に、ジョウは、否、グラムは気を失い倒れた。限界寸前の身体を精神力だけで無理矢理支えていたのを使い切ったようだった。

「グラム、ザイフリート……」

？邪竜を斬り裂いた魔剣と、それを持つ竜殺しの英雄。どうやら俺とコイツのセンスは兄弟だからか似ているらしい。

「俺をまだ兄と思うか、弟よ」

？名を捨てながら、身内のケリをつけると言った。ならば俺は兄として、お前に復讐される者としてお前を迎え撃とう。

「待ってるぜグラム・ザイフリート！お前が俺を殺しに来るのをなあ！」

？荒野に笑い声を響かせながら歩き出す。脳裏に己を貫く瞳の奥の光を思い浮かべながら。

それは運命の分岐点

? どうもみなさん、ゆつくりアオイです。

? 前回はプロローグイベントが終わり、とうとう主人公を操作出来る直前まで行きました。では続きと参りましょう。

? はい、ここはグラムの家のリビングです。ちょっと大きいレベルのリビングですね、まあ木っ端商人ぐらいならこんなものでしょう。

? プロローグイベントから一ヶ月の時間が過ぎており、その間に体は完治しています。という事でここからグラムの行動が操作出来ます。まず家の中には誰もいません。元々使用人の様な人間もおらず、前回両親は爆殺されたのでこの家にはグラム一人です。

? 本来このゲームをオリキャラで始めた場合10歳からスタートするのですが、このルートでは特にその制約はありません。ただし年が離れすぎていると邪竜滅殺√に入れないので注意しましょう。新西暦1012年なんかを生まれにするとまだ子供の主人公が邪竜に拾われてしまいますので。

？ちなみに10歳より年齢が高いとその分基礎ステータスが高かったりします。グラムの現在のステータスは商人の息子であるという補正が働き知力とキャラメイクの時に振った攻撃力が高いですが、最も高いのは精神力です。初期ステータスに降ったのに加え、スキル「復讐者」とダインスレイフの血縁補正を併せて既にかなり高くなっています。

？家族も使用人もいないので現状はコミュニケーションが出来ません。街に出かける事も出来ませんが、今はひたすら自主訓練と勉強でステータスを向上させます。一年立つと傭兵になれるのでやれる事が増えるので一年間はひたすらに努力を重ねましょう。攻撃力、俊敏性、知力をメインに伸ばして行きます。攻撃力は言わずもがな、俊敏性はダインスレイフの星辰光のランダム攻撃の回避に、知力は傭兵にとって必須の情報関係に必要です。地味な絵面になるので控えめに3.7倍速にしておきましょう。

？ではステ上げの間にこのゲームにおける傭兵についての説明をします。クエストを選択して受けるのは帝国兵士の時と変わりませんが、傭兵は一週間サイクルの後休日、なんて仕様はないです。毎日自由行動が可能でクエストをするもしないも自由です。ただクエストを受ける以外にも情報収集や必要な物を買ったりするので、兵士より傭兵の方が楽なんて事はありません。

？更に傭兵には他に特殊な仕様があります。【報酬】と【知名度】、そして【人脈】です。

？【報酬】はその名の通り、クエストの後に支払われるお金の事です。このアンタルヤ商業連合国において金は全てに優先されます。金は情報、武器、道具、星辰奏者施術などあらゆる物事に必要不可欠な物です。特に大量の資金が無いと星辰奏者施術を受ける事が出来ないのです。しっかりと稼いで貯めましょう。

？次に【知名度】、これはどれだけ名が知られているかですね。これを上げておかないと難易度の高く報酬や経験値が多いクエストが受けられないのであるべく高くしておきましょう。知名度はクエストを達成したり、人脈を増やす事で上昇します。

？最後に【人脈】です。これはNPCとコミュニケーションを取ると増えていきます。傭兵のクエストには協力NPCがいる事が多いので積極的に絡んで人脈を増やしましょう。人脈が多いと重要な情報がプレイヤーに回りやすくなります。これを増やしておかないと星辰奏者技術流出後のダインスレイフ戦の前に星辰奏者施術を受けられないので詰みます。

？と、半年が経ちましたね。半年が経つと武器屋が解放されるので街に出かけましょう。帝国と違い傭兵は武器が支給される事は無いので自分で調達しないといけません。？武器屋に着いたので買う武器を選びます。ここでの装備選択が後の命取りとなるので真面目に選びましょう。まあ何をかうかは事前に決めてあります。数多の武器の中から選ぶのはブレードトンファーです。

？理由としてはまず軽く大きくなく小回りが効くからです。武器の重さは星辰奏者になれば関係なくなります。星辰奏者になるまで15年もあるのでここで大剣なんかを選ぶとかなり苦勞します。

？大きさは攻撃とガードの時に範囲が広くなりますが、後隙が大きくあまりオススメ出来ません。星辰奏者と言えど長物をブンブンすれば少しは隙が出来る物なのです。ちなみにヴァルゼライド閣下の攻撃の隙はコンマ1秒ほど、流星です閣下……！

？次に攻防一体の片手武器である事です。片手武器は二つ装備する事で攻撃の効率を上げる事が出来ます。双剣やダインスレイフの箆手剣ジャマダハルもこのカテゴリーです。そしてトンファー系統の武器にはガードの後の隙が他の武器より短い仕様になっています。つまりダインスレイフの猛攻を凌ぐ為には同じカテゴリーのトンファー系統の武器が一番適しているのです。普通のトンファーじゃなくてブレードである理由はジークフリートなので剣要素が欲しかったからです、はい。

？値段は10000ディナールです。ケチる必要は無いのでポンと出して帰りましょう。説明し忘れていましたが、グラムの初期資金は300万ディナールです。両親の遺産らしいですが、これが十氏族スタートだと3億ディナールなので超端金です。木っ端商人なのでこんなもんです、悲しいですが。星辰奏者施術に必要な資金は1億ディナールなので頑張りましょう。

？では訓練と勉強の再開です。武器があると自主訓練が武器訓練にアップグレードされるのでステータスの伸びがちよつと上がってます。だから武器屋が解放されてからすぐに買いに行くのが正解という訳です。

？半年以降は街に出掛けるとランダムで原作キャラや十氏族との遭遇イベントが起こるのですが、今回は邪竜討伐の為に少しでもステータスを伸ばすのでやりません。

？結局半年間何も起こらなかったのでカットです。たまーにイベントが起こったりするんですが、実況プレイだとまず味ですねこれは……。まあいいです、撮れ高はこれからなので。

？という事で無事傭兵への道に進みます。早速依頼を……と行きたいところですが、傭兵の世界は甘くありません。依頼の内容がどういふ物かわかっても、難易度はそのままじゃわからないのです。下手に自分に見合っていない難易度の依頼を受けてしまうと死ぬので、まずは酒場で情報収集です。酒場と言ってもただの酒場ではありません、傭兵の集まる通称「傭兵酒場」です。アンタルヤには傭兵が多いので街の中にも幾つかその類いの物があります。街に出掛けて傭兵酒場に向かいましょう。

『グラムは傭兵酒場の場所を知らない。道行く誰かに尋ねよう』

？……あ、これは遭遇イベント引きました、ラッキーですね。このタイミングで遭遇するキャラクターは二人なのですが、どちらでしょうか。

「ねえ君、そこに行くのは危ないわよ？」

？傭兵団「暁の海洋」の団長、アリス・L・ミラーですね。まだトリニティ開始から17年も前なんです。が全く見た目に違いがありません、まあ彼女にも色々あるんでしょう。ちなみに遭遇する可能性があるのは彼女と本国でブイブイ言わせてる頃のリン・ミツバです。

？警告……というか注意喚起ですかね、傭兵酒場に行こうとするグラムを止めていきます。しかし危険を承知で行くので止まってはいただけません、傭兵にならないと話が進まないのです。

「……へー、傭兵になりたいの君。ふーん……」

？目を細めて此方をジロジロと見つめています。彼女は踊り子に扮している時は普通に絡んできますが、傭兵の時はこうやってプレイヤーを品定めするように見えます。

「じゃあ君！ウチの傭兵団に入らない？」

？そしてその後低確率で勧誘されます。本人の好みなのかプレイヤーが男女問わず若いと確率が上がります。暁の海洋に入る為にリセマラを繰り返す場合年齢が10代じゃないと死ぬほど時間が掛かるので気をつけましょう。

？選択肢に「入る」と「入らない」が出てきましたがどうしましょうか、まさかここで彼女に会うとは思いませんでしたので少し戸惑ってしまいますね。

？ですが傭兵団に入るデメリットはほぼないんですよ。一人で傭兵やる時と同じく基本行動は自由ですし、偶に傭兵団としての依頼に参加する事が必要なくらいです。

？メリットは人脈と知名度が増加する、依頼内容の情報が集めやすくなる、星辰奏者施術など必要な資金を幾らか負担してくれるなど……正直入らない理由が無いですね。

？しかし忘れてはいけません、暁の海洋はトリニティ本編でリン・ミツバに雇われています。つまり復讐相手であるダインスレイフと同じ陣営に所属する事になります。前回取得したスキル「復讐者」にはデメリットとして、戦場に復讐対象がいる場合最優先で戦闘をしなくてはならないという物があるので同陣営の者に攻撃を仕掛けるのはいいだけません、という訳で残念ながら「入らない」を選びます。

「あらら、何か理由でもあるの？」

？「正直に話す」か「誤魔化す」のうち「誤魔化す」を選びます。初対面の人間に復讐云々を話すのは気が引けるので……

「極めて個人的な理由ねえ……。でも傭兵団から始めた方がいろいろスムーズよ？」

？……諦めが悪いというかなんというか、逆にそこまでグラムを誘う理由をコツチが聞きたいですね。やっぱ面食いですか、そんなに未成熟な果実にかぶりつきたいんですか。

？この世界の神曰く、英雄になるには童貞でなければいけないのでまんまと食わ

れる訳にはいきません。竜殺しの英雄となるべく貞操はしっかり守りましょう。

「大丈夫大丈夫！君みたいなカワイイ子に変な事しないって」

？……いやでも途中で抜ければモーマンタイでは？傭兵団を抜けるデメリットはメンバーからの好感度が下がるくらいですし、人脈や知名度稼ぎの為にも入るメリットの方が大きいですかね。よし、なら着いて行きましよう、貞操は死ぬ気で守ります。

「よーし、早速行くわよー！」

？彼女に手を引かれて傭兵酒場に向かう事になりました。頭の中に描いていた予定は狂いましたが、ゲームで思い通りに行かなくて行き当たりばったりになるのはよくある事なのでヨシ！とします。

？——というところで今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

？大抵の出来事に言えるものだけけれど、その出会いはたまたまだった。ある商会との契約が終わつてようやく団員達が羽を伸ばす事が出来るようになったので、私も久々に街へ足を運んでいた。

「さーてさて、何しよつかなー？」

？お酒は……昨夜みんなと散々飲んだから今は別にいいや。じゃあ露店とかで可愛い

アクセサリーを買ったりとか、可愛い子を捕まえてキヤツキヤウフフな事しちゃったりとか、あくどうしようかな悩んじゃう!

? そーんな妄想に思いを馳せていると、後ろから声をかけられた。

「その君」

「ん、私?」

? あらヤダイケメン、振り返るとすっごい好みめの男の子が立っていた。赤い髪に緑の瞳の目立つ容姿、まだ幼さの残るキリツとした顔立ち、成程、カッコ可愛いっていうのはこういう事を言うのね。

「尋ねたい事があるのだが、少しいいだろうか?」

「なーになに? お姉さん何でも答えちゃうゾ♡?」

「お姉さん……? まあいいか、傭兵酒場の場所を知らないだろうか」

? ……傭兵酒場? えっ何この子あんなどこ行こうとしてるの?

「ねえ君、そこに行くのは危ないわよ?」

? 傭兵なんて基本ならず者の集まりだし、そこにこんなカワイイ子が行ったらきつとろくでもない事になるに違いないわ。

「無論危険は承知の上だ。傭兵になるならまずは傭兵の集まる場所に行くのが一番だろう」

「……へー、傭兵になりたいの君。ふーん……」

「よく見れば体は鍛えられてるし、腰にはトンファーっぽい武器があるし、傭兵志望っていうのはホントみたいね。」

「確かにこれならあそこに行っても大丈夫かもしれないけど……」

「何で傭兵なんかになりたいの?」

「……あまり、人には言えない事情だ」

「普通そうよね、多分私もそうするわ。うーん、でもこの出会いをこれだけで終わらせちゃうのはちよつと勿体ないかな……。この子結構将来有望そうだし、ウチに引き込むのもアリかもしれない。」

「後、何かこの子、ほつとけない雰囲気出してるといふか、ほつといたらとんでもない事やらかしそうなのよね……。よし、勧誘しましょうそうしましょう。乙女の勘は侮れないって事は私自身がよくわかってるもの。」

「じゃあ君!ウチの傭兵団に入らない?」

「ウチ?……君傭兵だったのか?」

「そうよ、というか格好見ればわかるでしょう。私はアリス・L・ミラー、傭兵団暁の海洋の団長よ」

「団長……団長!?どう見ても子供なのにか?!」

? あー、まあ当然の反応よね。客観的に見たらふつー信じないわ。

「そう言うアナタは幾つなの」

「15だが……」

「じゃあ私の方が年上ね」

「どう見ても12か13くらいにしか見えないが……!? 17くらいか? いや、そうだとしても幼すぎる……」

「そこはあなたと同じ、あんまり人には言えない事情があったりするの。それにレディに対して年の話は厳禁よ?」

「む……それは失礼した」

? 正直ドン引き間違い無しの話だから易々と人に話す訳にもいかないのよねー。

「それでどうする? 別に今すぐに答えを出さなくても構わないけれど、突然だし」

「………勧誘は有難い。しかし、申し訳ないが断らせて貰う」

「あーら、何か理由でもあるの?」

「傭兵になるのと同じく、極めて個人的な理由だ」

「極めて個人的な理由ねえ……。でも傭兵団から始めた方がいろいろスムーズよ? ウチそこそこ大きいから変なの絡まれにくいし」

「それも含めて試練だと思ってる。その程度を乗り越えられなければ……」

「んー、結構頑固。でもなー、私としては将来有望そうな子と今の内に関係作っておきたいしなー。」

「……………もう無理矢理引つ張つてつちやった方がいいかしら、それでダメなら残念でしたって事で。押してダメなら引いてみるってね。」

「……………実は何か企んでいたりしないか？」

「いやいやいや大丈夫大丈夫！君みたいなカワイイ子に変な事しないって」

「可愛い……………可愛い!？」

「ていうかー、このままじゃ罅が明かないからー、1回ウチの団見に行きましょうー!」
「ちよつと動揺してるところを腕を掴んで引つ張っていく。確かまだあそこに居るはずだし酒場に向かいますよ!」

「いや待て、いろいろ待て、俺の了承はどうした!というか可愛いとは何だ——」

「百聞は一見にしかずって旧暦の人も言ってたし!よーし、早速行くわよー!」

「人の話を聞けエ!」

「多少抵抗されたものの、そのままズルズルと私は彼と傭兵酒場へ向かうのだった!

「……………あ、そういうえば名前聞いてなくない？」

「あなた名前は?」

「この状況でそれを聞くのか!？」

「逆にこの状況だからこそだと思わない？どの道傭兵酒場に行くんだし、何時までも君じゃおかしいし」

？彼は何処か納得していない様な表情をしながらも、仕方なさそうに名前を告げた。

「俺はグラム、グラム・ザイフリートだ」